

令和3年度ボランティア大賞受賞活動

ボランティアに関する感動的な活動、勇気づけられる活動又は心温まるような活動及び企業等が実施するボランティア活動（CSR活動を含む）に感謝し、これらを顕彰することにより、ボランティア活動の活発化と全県的な広がり の機運を高め、その社会的認識の向上を図ることを目的に、平成13年度から実施しています。

この度、令和3年度の大賞受賞活動が決まりましたので、ご紹介します。

神戸(震災で被災した高齢者)に手紙を書く会 とらすとK

県立琴平高校の生徒が主体となり、阪神・淡路大震災で被災した高齢者に元気になってほしいという思いから平成17年に結成され、「どうすれば相手を元気づけられるか」ということを第一に考えながら文通等による交流を続けている。

高校生が主体となり被災者支援活動を継続している点や、手紙の書き方を知らない若者もいる中で、文通という文化を大切にしながら活動している点を評価しました。



審査委員



食を通じた障害者の居場所提供と地域交流促進活動 鳥井 和代 さん

障害者や近隣の高齢者が気軽に集まって語り合える場として、営業している喫茶店を月に一度開放しており、参加者が安心して自分のことを語ったり、お互いの存在を認め合うことができる場を提供している。

障害者や高齢者など地域住民の交流の拠点となればとの思いから、退職後に喫茶店を開業し、その後約17年間、地域の憩いの場の提供に努めている点を評価しました。



審査委員



和文化交流支援活動 明石 美代子 さん

カナン保育園児童クラブの児童や園児を対象に、茶道を通じて文化だけでなく相手への気遣い等も教えている。また、高齢者施設でもお茶の教室を開き、園児及び児童を招待することで、高齢者との触れ合いの場を提供している。

36年の長きにわたり、お茶の作法等を園児や小学生に教えることで、子どもたちの価値観や気づきの広がり に寄与している点を評価しました。



審査委員



伴走、伴歩による視覚障害者等の健康増進支援活動 てんとう虫パートナーズ

四国で最初の伴走・伴歩支援団体として結成され、視覚障害者などの健康増進を目的に、毎週、高松等の会場にて活動をしている。また、伴走・伴歩の活動への理解促進に努めており、その活動の影響を受けて他県でも同様の団体が結成されるなど、先駆的な役割も担っている。

パラリンピックの年にふさわしい、素晴らしい活動です。こうした地道な活動が、アスリートの誕生につながり、多くの人に希望と勇気を与えることにもつながる点を評価しました。



審査委員

